A : 岩手県コース
得井　久夫（1971・法）

立命館大学校友会　東日本大震災復興支援事業
東北応援ツアーに参加して

昨日より急に冷え込み、秋が岩手にも訪れ、今朝盛岡は４℃まで冷え込む予報です。
10/13-14 東北応援ツアー岩手県コースに参加させていただき井までにない深い感動を憶えました。
人と人とのつながり、人間の絆の大切さ、又今の時代、人とのかかわりを持つことをやめ、ひき込もり、自分の世界をどんどん狭くする。また、人を傷つけ、いじめ、ねたみをふくらます。

私は４～５年前、もっと以前からこれからは校友会の重要性がどんどん増して「校友会」の時代がやってくると想ってきました。
官から民への時代はくると…しかし官僚は強く自分達の立場だけを正当化してゆく…

私は卒業以来ずっと勤めた流通業のダイエーを今年の 11 月に 65 歳の定年退職することになります。
4 年前から生まれ育った広島の基町高校の同窓会にも参加し、自分の高校の後輩、桂塩鯛の弟子桂塩蔵の落語会の企画にもたずさわってきました。
大学での四年間を過ごした落語研究会も今年創設 47 年目であと 3 年後の 2015 年には 50 周年の節目を向かえ、プロの落語家も桂塩鯛が 58 歳、桂小春團治が 56 歳、又立命出身で桂咲之輔が 29 歳で活躍しております。
OB の総数も 300 名を越えて来ましたが、昨今、現役、若い 20～30 代があまりじぶんからすすんで参加してこない状況となりました。

私も 32 歳の時、仕事の人間関係で抑うつ状態となりずっと病院に通っておりましたが、4 年近く前から薬もやめて一人暮らしをはじめてこれからの人生、人との出会いを大切にしようと思い、落研の OB との交流を積極的に持つようになりました。大阪・名古屋・新宮・東京・岡山・広島・博多とまわりはじめて今年の 9 月には浦郡で古めかしいが格調高い学園祭での「立命寄席」をほうふつさせる会で 40 年以上昔の以学館 1 号、広小路の学園ホールでの舞台を想い出しました。

今年も 7 月に岡山県校友会に出席してみると、昨年よりも 50 名多い 250 名以上の集客がありました。
岡山県校友会会長守屋さんにお聞きすると若干、卒業 2～3 年目の若い女性の方が中心に企画勧誘を行い、平成卒業の方の出席がふえたとの事です。
やはり若い方、特に女性の方の企画、実践される、すぐに効果が現れ、集客アップに結びつく実例がありました。
今回の応援ツアーも鈴木さんの元 ESS のグループ以外には皆さん 1 人で女性 10 名若い方も 9 名と参加が多いのに驚きました…。
応援ツアーは「震災を風化させない」。そして東北にお金をおとすツアーなのだと認識していたらそのままでした。
被災者の方々とコミュニケーションをとる。事実をみて「風評被害」をおこさない。おこさせない。東北全体に「人」「もの」「金」「情報」がゆきわたるようにする。仙台に一極集中しているうわさは耳にしますが…。
そして皆でうまい酒を飲むというシンプルな主旨が良く、大変に楽しい心地よい 2 日間が過ぎました。
東日本大震災、東電福島原発事故に対する日本の復興作業は遅々としています。
被害は広範囲に及ぶ重大なものなのに国の対策は「ちまちま」している。

校友会で集めた義援金はすべて直接に被災された校友に手渡しされているということを岡山での校友会で聞き大

変良いことと喜びました。

宮古市「浄土ヶ浜パークホテル」での交流会が開かれ、まず菊池岩手県校友会会長のごあいさつから元 ESS 鈴木さんのお話、佐野さんのスライドを使ったお話をうかがい「大震災」を風化させてはならないという熱意に感激しました。
やはり皆さん昔からの手づくりの「お祭り」をやりたいとおっしゃっていたのが印象的でした。
その後は大宴会、カラオケともりあがりました。

最後に、この企画が一期一会ではなく継続されるよう希望する為、発起人である竹村さんから提案があり、参加者全員 26 名の名簿・アドレスを宮古から中尊寺のバスの途中で書きまとめ、すぐに帰って竹村さんが全員に郵送されました。

参加者がまた集合する環境をつくっていただきました。
又、私も来年にも東北へ足を伸ばすつもりです。

菊池会長から翌日にはお礼の葉書を頂き大変恐縮しておりますが･･･
皆様方に又お会いできるのを楽しみにしております。楽しい 2 日間をありがとうございました。又、写真をお送りしますので･･･。

2012.10.25
立命館大学　落語研究会　O.B
四代目　安心亭立命(あんしんていりつめい)こと立命亭金烏(きんう)
得井　久夫